

5月29日(月)から5月31日(水)にかけて、京都・奈良方面の修学旅行に同行しました。コロナ禍の影響も一段落したこともあり、外国籍と思われる観光客も多く、大変なにぎわいでした。観光地の風景は、パソコンやスマートフォン等を検索すれば見えますが、やはり現地に行って体験することを人は求めるようです。実際、3年生の様子を見ても、東大寺や三十三間堂等を目の前にした感動や喜びを見て取ることができました。きらきらと目が輝いて、見ているほうも嬉しくなりました。

現代の中学生の体験といえば、タブレット端末のモニタ画面等を介して感覚的に学びとる「間接体験」やシミュレーションや模型等を通じて模擬的に学ぶ「擬似体験」による学習も多くなってきました。

「間接体験」や「擬似体験」の価値はもちろん否定しませんが、感動や喜びの瞬間は、実践的・体験的な「直接体験(リアル)」との往還(ベストミックス)が大切です。生徒が深く興味・関心を抱き、じっくりと観たり聴いたり、触ったりすることで深い感動や喜びとなるのです。修学旅行での3年生の様子から、多くの「直接体験(リアル)」を促して感動や喜びを創出する機会を増やす重要性について、改めて考えさせられました。

さて、6月を迎えました。3年生のみならず全校生徒にとって、総合体育大会や吹奏楽コンクール、夏休み……が目の前にあります。私たち坂本中の職員は、生徒と一緒に「直接体験(リアル)」を大切にし、深い感動や喜びが得られる活動を目指して、楽しむことにくぎつけにする場を創出していくことに力を入れてまいります。